

主題：

キリストのからだとしての召会を建造するために、
キリストの豊富を享受する

メッセージ 1

召会を生み出すという神の永遠の定められた御旨

聖書：啓 4:11. エペソ 1:5, 9, 11. 3:11. II テモテ 1:9. ローマ 8:28

- I. 「わたしたちの主また神よ、あなたは、栄光と尊貴と力とを受けるにふさわしいです。あなたは万物を創造され、あなたのみこころのゆえに、万物は存在し、創造されたからです」——啓 4:11：
- A. 神のみこころとは神の願いです。神のみこころとは神が行ないたいことです——エペソ 1:9：
1. 神の大いなる喜びは彼のみこころからであり、彼のみこころの中に具体化されているので、彼のみこころが最初に来ます——5節。
 2. 神がみこころの奥義をわたしたちに知らせてくださったのは、キリストにある彼の啓示を通して、すなわち、キリストの肉体と成ること、十字架、復活、昇天を通してです——9節. 3:9。
 3. 神はみこころの熟慮にしたがってすべての事柄を行ないません。神のみこころは彼の意図であり、彼の熟慮は彼のみこころ、あるいは意図を達成する方法を考えることです——1:11。
- B. 神は定められた御旨のある神であり、ご自身の喜びのみこころを持っています——3:9-11. コロサイ 1:9。
- C. 神が彼のみこころのために万物を創造したのは、彼の定められた御旨を完成し、成就するためです——啓 4:11. ローマ 8:28。
- II. 永遠の定められた御旨（文字どおりには、「もろもろの時代の定められた御旨」）は、過去の永遠において、未来の永遠のために神によって立てられました——エペソ 3:11：
- A. 定められた御旨とは、何かを行なうために、あるいは何かを獲得するために決定された意図です。
- B. もろもろの時代の定められた御旨は永遠における定められた御旨、永遠の定められた御旨です。
- C. 過去の永遠において、世の基が置かれる前から、天、地、万物が創造される前から、神は未来における、来たるべき永遠におけることのために、定められた御旨を立てました。ですから、それは永遠における定められた御旨、永遠の定められた御旨と呼ばれています——1:4-5, 9, 11. 3:11。

- D. 神の決定されたみこころは、神の定められた御旨となりました—— 1:5。
- E. 神の定められた御旨は、召会を獲得するという彼の決定された意図です—— 9, 11 節。
- F. 人を創造することでの神の定められた御旨は、人が彼を表現し、彼を代行することでした。神の永遠の定められた御旨は、団体の人を持って、彼を表現し、彼を代行することです——創 1:26-27。
- G. 創造は神の当初の定められた御旨の一部分でしたが、贖いは救済的なものでした。贖いはわたしたちを神の永遠の定められた御旨に連れ戻します——ローマ 3:24. エペソ 1:7. コロサイ 1:14。

III. 神がわたしたちを救い、聖なる召しをもって召してくださったのは、「彼ご自身の定められた御旨と恵みによります」—— II テモテ 1:9 :

- A. わたしたちは神の視点から救いを見る必要があります。神の救いの目的は、彼の創造され贖われた人が子たる身分を持つこと、すなわち、御子の命を持って御子のかたちに同形化され、御子が多くの兄弟たちの間で長子となることです—— I ヨハネ 5:11-12. ローマ 8:29。
- B. 神の定められた御旨はご自身のみこころにしたがったご計画であり、わたしたちをキリストの中へと置き、わたしたちを彼と一にして、彼の命と地位にあずからせ、わたしたちが彼の証しとなることです——エペソ 1:5, 9, 11. I コリント 1:30. I ヨハネ 5:11-12。
- C. 恵みはわたしたちに与えられた命における神の備えであり、わたしたちが彼の定められた御旨を生かし出すためです——ヨハネ 1:14, 16-17。
- D. 救いは、わたしたちが意義のない人生から救われることと関係があります——伝 1:2 :
 - 1. 神の福音はわたしたちを意義のない人生から救い出し、宇宙の意義へと入れます——啓 4:11。
 - 2. 神は大いなる意義と定められた御旨を持つ人を創造しましたが、人は墮落し、人生の意義は失われました。
 - 3. 神は彼の救いをもって、わたしたちを救済し、宇宙の意義であるわたしたちの当初の目的に連れ戻します——ローマ 8:28. II テモテ 1:9。

IV. 神の永遠の定められた御旨は召会を生み出すことです——エペソ 1:9, 11. 3:9-11. ローマ 8:28 :

- A. エペソ第 3 章 10 節から 11 節が啓示しているのは、召会の存在が、神がわたしたちの主キリスト・イエスの中で立てられた、永遠の定められた御旨にしたがっているということです :
 - 1. 召会は永遠において神によって計画されました。時が始まる前、永遠において、神は召会を持つことをもくろみました—— 1:4-5, 9, 11, 22-23。
 - 2. 宇宙の存在は、召会を持つという神の永遠の定められた御旨にしたがっています——啓 4:11. エペソ 3:9-11。
 - 3. 過去の永遠において、来たるべき永遠のために、神はキリストの中で、キリストのために召会を持つことを計画し、もくろみました—— 10-11 節 :

- a. 召会は暫時的な事柄ではなく、神の永遠の定められた御旨の中にある永遠の事柄です。召会は神の永遠のご計画の中心また主題です。
 - b. 神は過去の永遠において召会を持つことを計画しました。そして彼は、来たるべき永遠において召会を持つことを期待しています。
 - c. 召会はこの時代にあり、この時代を経過しますが、それは過去の永遠からであり、未来の永遠のためです——マタイ 16:18. 18:17. 啓 21:2, 9-11。
- B. 神は、再生され造り変えられた人から成る召会を持つことを計画しました。彼らは団体のからだとして組み合わされ、共に建造されています——エペソ 1:22-23, 2:21-22. 3:14-21 :
1. 神は、この団体のからだは団体の器であり、彼がご自身をその中へと造り込むことを計画しました—— 14-16 節。
 2. 神の定められた御旨、彼の決定された意図は、団体のからだ、団体の器を持つことであり、彼はそれとご自身、また彼が持っているすべてをミングリングすることができます。この器が召会です—— 4:4-6, 16。
 3. 召会が神にとって親愛で、愛すべき、尊いものであるのは、召会が彼の大きい喜び、彼の心の願いであるからです—— 1:5, 9, 22-23。